

杜 の 街 開 発 事 業  
に 係 る 事 後 調 査 報 告 書

(Ⅰ期工事区域：供用後)

(Ⅱ期工事区域：工事中)

(Ⅲ期工事区域：工事中)

令和3年 5月

三交不動産株式会社



## はじめに

本報告書は、杜の街開発事業(旧名称：河芸グリーンガーデン複合開発事業)が実施されるにあたり、「河芸グリーンガーデン複合開発事業に係る環境影響評価書(以下、「評価書」という)」に記載した「事後調査実施計画」に従い、工事中に行うとした水質調査、特筆すべき動物調査、及び供用後に行うとした水質調査の令和2年度調査結果について記載したものです。

なお、調査及びとりまとめは、一般財団法人三重県環境保全事業団が行いました。



# 目 次

1	事業の概要	1
1-1	氏名及び住所	1
1-2	指定事業の名称、実施場所及び規模	1
1-3	工事の進捗状況	1
2	本調査の位置付け	1
3	水 質	5
3-1	調査概要	5
3-2	調査年月日及び調査内容	5
3-3	調査地点	6
3-4	調査項目及び分析方法	7
3-5	調査結果	8
3-5-1	工事中の濁水	8
3-5-2	供用後の水質	11
4	特筆すべき動物	12
4-1	オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ	12
4-1-1	調査概要	12
4-1-2	調査年月日及び調査内容	12
4-1-3	調査場所	12
4-1-4	調査方法	12
4-1-5	調査結果	14
4-2	コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウ	16
4-2-1	調査概要	16
4-2-2	調査年月日及び調査内容	16
4-2-3	調査ルート	16
4-2-4	調査方法	16
4-2-5	調査結果	18
4-3	カスミサンショウウオ	20
4-3-1	調査概要	20
4-3-2	調査年月日及び調査内容	20
4-3-3	調査場所	20
4-3-4	調査方法	20
4-3-5	調査結果	22
4-4	ダルマガエル	25

4-4-1	調査概要.....	25
4-4-2	調査年月日及び調査内容.....	25
4-4-3	調査場所.....	25
4-4-4	調査方法.....	25
4-4-5	調査結果.....	25

<資料編>

## 1 事業の概要

### 1-1 氏名及び住所

氏 名：三交不動産株式会社 代表取締役社長 高林 学  
住 所：三重県津市丸之内 9 番 18 号

### 1-2 指定事業の名称、実施場所及び規模

名 称：杜の街開発事業(旧名称：河芸グリーンガーデン複合開発事業)  
実施場所：三重県津市河芸町杜の街地内  
規 模：総事業面積 1,193,186 m<sup>2</sup>

### 1-3 工事の進捗状況

令和 3 年 3 月現在の工事の進捗状況は、次のとおりです。(図 2-1 参照)

- ・ I 期工事区域 — 供用中
- ・ II 期工事区域 — 工事中及び一部供用
- ・ III 期工事区域 — 工事中及び一部供用

## 2 本調査の位置付け

本調査の位置づけは、表 2-1～3 に示したとおり I 期工事区域は供用後(20 年目)の調査、II 期工事区域は一部で供用はしたものの、工事中(21 年目)の調査、III 期工事区域も一部で供用は開始したものの、工事中(10 年目)の調査になります。

表 2-1 調査一覧（Ⅰ期工事区域）

	着工前	工事中			供用後									
		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
		1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
騒音		○	○	○										
土壌	○													
特筆すべき植物	○	○	○		○		☆							
特筆すべき動物		○	○	○	○	○	○		○		○		☆	

○：調査実施済 ☆：動植物調査最終年度

	供用後										
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3以降
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21～
水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	◎

○：調査実施済 ●：今年実施調査 ◎：次年以降調査予定

表 2-2 調査一覧（Ⅱ期工事区域）

	着工前 (H.11年)	工事中											
		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水質		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
騒音		○	○	○	○	○							
特筆すべき植物	○	○		○		☆							
特筆すべき動物		△	△	△	△	○	△	○	△	○	○	△	○

○：調査実施済 ☆：動植物調査最終年度 △：Ⅰ期工事の調査で実施

注：平成 15 年より一部供用開始しているが、工事中としての位置付け。

	工事中									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3以降
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22～
水質	○	○	○	○	○	○	○	○	●	◎
特筆すべき動物	○	○	○	○	○	○	○	○	●	◎

○：調査実施済 ●：今年実施調査 ◎：次年以降調査予定

注：平成 15 年より一部供用開始しているが、工事中としての位置付け。



表 2-3 調査一覧（Ⅲ期工事区域）

	着工前・ 工事中 (H23年)	工 事 中									
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3以降
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～
水 質	△	△	△	△	△	△	△	△	△	●	◎
騒 音	○	○									
特筆すべき植物	○	○		○		☆					
特筆すべき動物	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

○：調査実施済 ●：今年実施調査 ☆：動植物調査最終年度  
 △：Ⅰ期またはⅡ期工事の調査で実施 ◎：次年以降調査予定  
 注：平成 25 年より一部供用開始しているが、工事中としての位置付け。



### 3 水 質

#### 3-1 調査概要

Ⅱ期及びⅢ期工事区域での工事を受け、評価書の事後調査実施計画に示した各流域の最終沈砂池出口において、降雨時または降雨後の流出水の浮遊物質(SS)等の測定を実施しました。

また、Ⅰ期工事区域については、工事も完了しほぼ全域で供用が開始されていることから、処理水放流先河川である田中川の放流口前後において、晴天時に調査を実施しました。

#### 3-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 3-1 に示したとおりです。

また濁水調査にあたっての調査 3 日前からの降雨状況を表 3-2 に示しました。

表 3-1 調査年月日及び調査内容

調査内容		調査年月日
工 事 中	濁水調査(降雨時) ※：豪雨時	令和 2 年 7 月 1 日
		令和 2 年 8 月 28 日※
		令和 2 年 10 月 12 日
		令和 3 年 1 月 25 日
		令和 3 年 2 月 16 日※
令和 3 年 3 月 3 日		
供 用 後	処理水調査(晴天時) (田中川の排水合流前・合流後)	令和 2 年 6 月 24 日
		令和 2 年 9 月 14 日
		令和 2 年 12 月 14 日
		令和 3 年 4 月 2 日

表 3-2 降雨状況

観測所名：津

単位：mm/日

測定日	調査当日	調査前日	調査 2 日前	調査 3 日前
令和 2 年 7 月 1 日	0.0	29.0	0.0	12.5
令和 2 年 8 月 28 日	18.5	75.0	0.0	0.0
令和 2 年 10 月 12 日	0.0	0.0	61.5	75.5
令和 3 年 1 月 25 日	0.0	11.0	28.5	3.0
令和 3 年 2 月 16 日	0.0	65.0	0.0	0.0
令和 3 年 3 月 3 日	0.0	7.0	0.0	0.0

出典：気象庁ホームページ(電子閲覧室)より

### 3-3 調査地点

工事中の濁水調査地点は図 3-1(1)に示したとおりであり、過年度から継続して調査を実施しているNo.5 最終沈砂池出口に加え、Ⅲ期工事区域での工事实施に伴ってNo.6 及びNo.7 調整池の出口を新たに調査地点とし、これらの流出先河川である田中川の上流と下流を合わせた計5地点で実施しました。なお、昨年度まで調査を実施してきたNo.2 については、流域の工事の完了に伴い調査を終了することとしました。

供用後の調査地点は図 3-1(2)に示したとおり、田中川の処理水放流地点の上流と下流の2地点で実施しました。

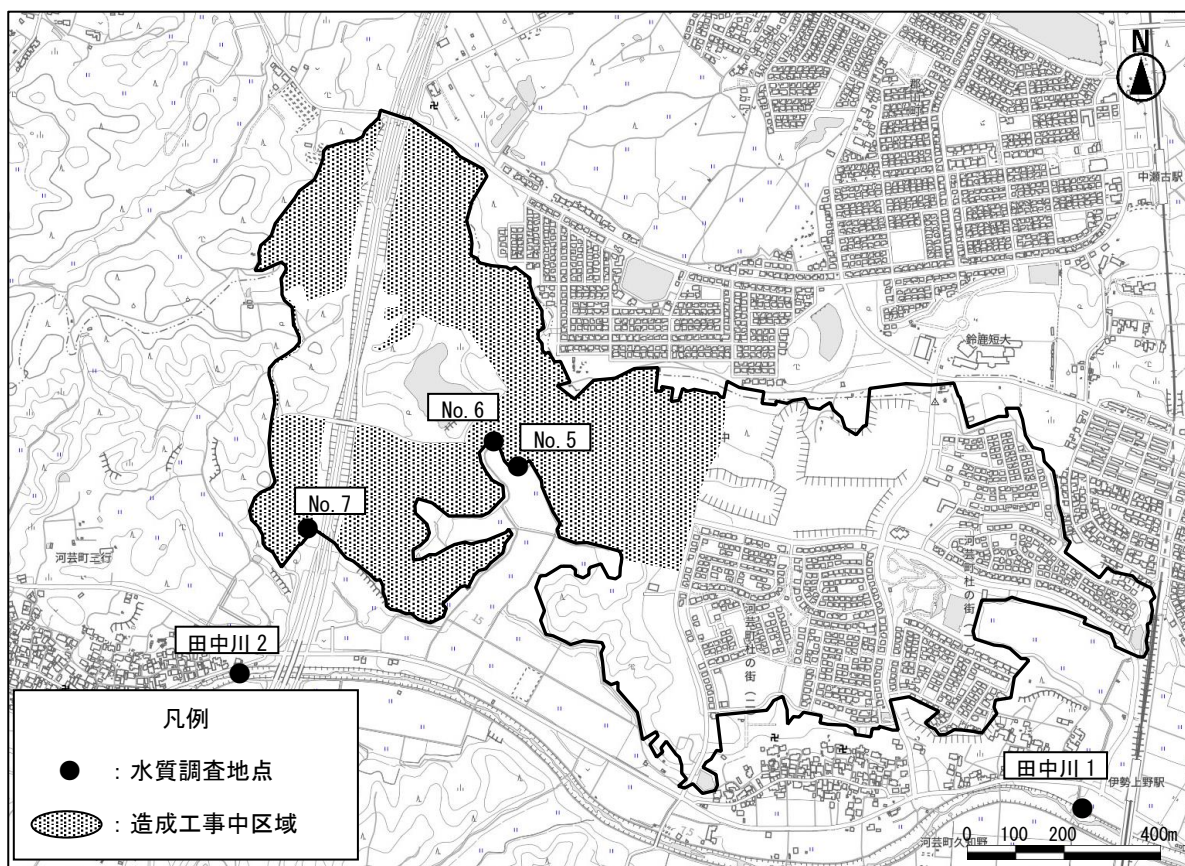


図 3-1(1) 水質調査地点(工事中の濁水)

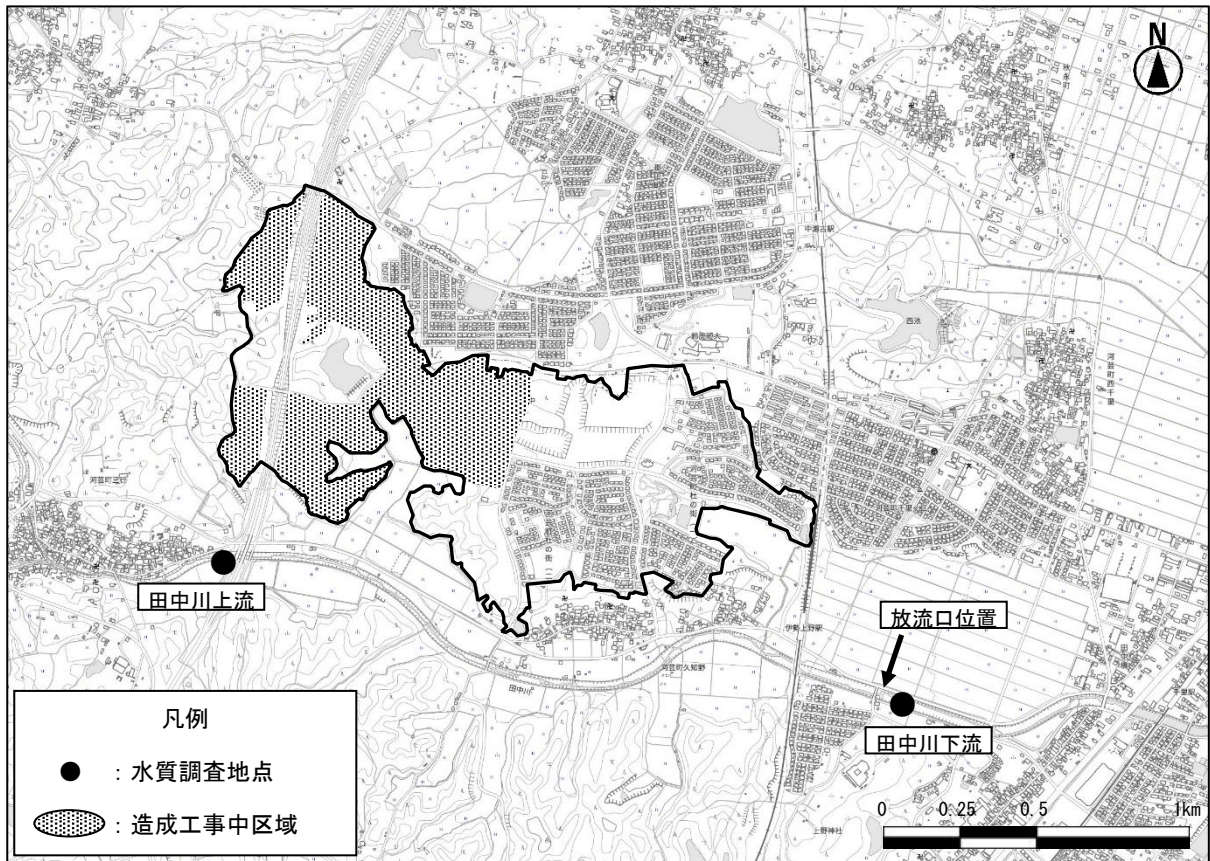


図 3-1(2) 水質調査地点(供用後の水質)

### 3-4 調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は表 3-3 に示したとおりです。

表 3-3 調査項目及び分析方法

調査項目		分析方法
工事中	浮遊物質(SS)	昭和 46 環告 59 号付表 9
	濁度	JIS K0101 9.4
供用後	水素イオン濃度(pH)	JIS K0102 12.1
	生物化学的酸素要求量(BOD)	JIS K0102 21 及び 32.3
	化学的酸素要求量(COD)	JIS K0102 17
	浮遊物質(SS)	昭和 46 環告 59 号付表 9
	n-ヘキサン抽出物質	昭和 46 環告 59 号付表 14
	溶存酸素(DO)	JIS K0102 32.1
	大腸菌群数(MPN)	昭和 46 環告 59 号別表 2
	全窒素(T-N)	JIS K0102 45.6
	全リン(T-P)	JIS K0102 46.3.4
流量	JIS K0094 8	

### 3-5 調査結果

#### 3-5-1 工事中の濁水

##### (1) 調査結果

SS、濁度の調査結果は表 3-4、5 に示したとおりです。

調査の結果、調整池での降雨時の SS 濃度の最大値は令和 2 年 8 月 28 日調査時の No.5 沈砂池出口で 53mg/L、濁度の最大値も同日同地点で 53 度でした。

また、田中川での SS 濃度の最大値は、令和 2 年 8 月 28 日調査時の田中川 1（下流側）で 33mg/L、濁度の最大値は同日同地点及び令和 3 年 2 月 16 日調査時の田中川 2（上流側）で 25 度でした。

次に、今回の結果を評価書における予測結果（Ⅱ、Ⅲ期工事実施時の SS 濃度予測結果：降水量 40mm/日）と比べてみると、No.5 沈砂池出口を除く全ての地点で、いずれの調査日も予測結果を下回る結果となりました。一方、No.5 沈砂池出口においては、令和 2 年 10 月 12 日調査時に予測結果（12mg/L）を下回った他は、予測結果を上回る結果となりました。また、流出先河川である田中川 1（下流側）においては、全調査日で予測結果（20mg/L）を下回る結果となりました。なお、今回の調査時の雨量は、令和 3 年 3 月 3 日で予測に用いた雨量より少なくなりました。

また、令和 2 年 8 月 28 日及び令和 3 年 2 月 16 日の降水量は通常降雨時の予測雨量を上回るため、豪雨時の予測結果と比較したところ、No.5 沈砂池出口の令和 2 年 8 月 28 日調査時で予測結果（48mg/L）を上回った他は、予測結果を下回りました。

上述したとおり No.5 沈砂池出口では予測結果を上回る値が多くみられましたが、昨年度も述べたとおり、同地点が仮設の沈砂池出口であり、常に堆積土砂が比較的多い状況であることが要因と考えられます。一方、放流先河川である田中川下流側では全ての調査日で予測値を下回っていたことから、流出先河川への著しい影響は生じていないものと考えられます。

採水状況等の調査風景は、資料編の写真 2-1-1～30 に示したとおりです。

表 3-4 水質調査結果(SS)

単位：mg/L

時期 地点	通常降雨時					豪雨時		
	R2		R3		評価書予測結果	R2	R3	評価書予測結果
	7/1	10/12	1/25	3/3	雨量(40 mm/日)	8/28	2/16	雨量(188mm/日)
No. 5	25	10	14	19	12	53	27	48
No. 6	15	5.1	4.2	5.4	23	19	10	93
No. 7	3.6	5.4	<1.0	1.7	21	13	7.3	86
田中川 1 (下流側)	18	7.0	6.0	6.4	20	33	25	—*
田中川 2 (上流側)	22	5.2	3.7	2.6	—*	14	29	—*

※：環境影響評価書において予測は実施されていない。

表 3-5 水質調査結果(濁度)

単位：度

時期 地点	通常降雨時				豪雨時	
	R2. 7. 1	R2. 10. 12	R3. 1. 25	R3. 3. 3	R2. 8. 28	R3. 2. 16
No. 5	23	14	16	14	53	25
No. 6	20	7.0	8.8	14	32	20
No. 7	3.7	8.3	<1.0	1.2	18	6.3
田中川 1(下流側)	20	5.6	4.9	6.6	25	24
田中川 2(上流側)	16	3.6	2.7	2.4	8.5	25

(2) まとめ

今回の調査結果を昨年度の結果と比較し、表 3-6 に示しました。

No.6、No.7 は新たに追加した地点のため比較できませんが、No.5 では、SS 濃度・濁度ともに今年度の平均値は昨年度の値を下回る結果となり、濁水の増加は生じていないものと考えられます。なお、濁水対策として次のことを実施しました。

- ・No. 5 沈砂池内の浚渫を実施した。
- ・放流部にろ過機能となる砕石パック等を設置した。
- ・造成後の裸地部については早期緑化に努め、濁水負荷軽減に努めた。

排水の流入先である田中川の値をみると、両地点の SS 濃度・濁度ともに昨年度の値を大きく下回る結果となりました。これは、昨年度の結果が上流側の河川掘削工事の影響により高かったためと考えられます。

なお、濁水の流入する田中川下流の地域住民や漁協等から、これまで苦情等は受けていませんが、引き続き調査を継続するとともに、巡回・監視等や必要に応じて濁水負荷軽減措置を講じるものとしします。

表 3-6 昨年度調査結果との比較 単位(SS : mg/L、濁度 : 度)

地点	S S		濁 度	
	令和 2 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和元年度
No.5	17 (10~25)	21 (4.0~50)	17 (14~23)	42 (4.1~110)
No.6	7.4 (4.2~15)	—*	12 (7.0~20)	—*
No.7	2.9 (<1.0~5.4)	—*	3.6 (<1.0~8.3)	—*
田中川 1(下流側)	9.4 (6.0~18)	77 (29~150)	9.3 (4.9~20)	71 (16~140)
田中川 2(上流側)	8.4 (2.6~22)	66 (14~120)	6.2 (2.4~16)	60 (10~120)

注：数値は「平均値(最小値~最大値)」

※：No.6 及びNo.7 調整池の調査は令和 2 年度より実施した。



### 3-5-2 供用後の水質

供用後の水質調査結果は表 3-7 に示したとおりです。

排水流入後の田中川 1（下流側）では、pH が 7.5～7.7、BOD が 1.0～4.3mg/L、COD が 3.2～7.2mg/L、SS が 2.5～52mg/L、T-N が 0.81～1.5mg/L、T-P が 0.078～0.13mg/L の範囲でした。排水流入前の田中川 2（上流側）では、pH が 7.7～8.1、BOD が 0.7～1.1mg/L、COD が 2.7～6.6mg/L、SS が 3.1～25mg/L、T-N が 0.30～0.87mg/L、T-P が 0.035～0.088mg/L の範囲でした。

今回の値を表 3-8 に示す評価書の供用時(田中川下流)の水質予測結果と各季で比較すると、全て予測結果を下回る値でした。

なお、評価書においては田中川での農業利水への影響を考慮し、保全対策として施設からの排水の放流先の変更を行っています。

採水状況等の調査風景は、資料編の写真 2-1-31～38 に示したとおりです。

表 3-7 水質調査結果(供用後の排水)

(単位 ; pH : なし、大腸菌群数 : MPN/100mL、流量 : m<sup>3</sup>/分、その他 : mg/L)

調査日 地点 項目	R2. 6. 24		R2. 9. 14		R2. 12. 14		R3. 4. 2	
	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)	田中川 1 (下流)	田中川 2 (上流)
水素イオン濃度 (pH)	7.7	8.1	7.7	7.7	7.7	7.7	7.5	7.9
生物化学的酸素 要求量(BOD)	4.3	1.1	1.2	0.9	1.0	0.7	1.2	0.8
化学的酸素要求 量(COD)	7.2	5.5	6.4	6.6	3.2	2.7	5.8	4.6
浮遊物質(SS)	20	11	14	9.0	2.5	3.1	52	25
n-ヘキサン 抽出物質	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
全窒素	0.81	0.45	0.82	0.48	1.5	0.87	0.82	0.30
全磷	0.10	0.088	0.11	0.075	0.078	0.035	0.13	0.082
溶存酸素	7.4	7.8	9.0	9.2	13	12	8.4	9.6
大腸菌群数(MPN)	920	9200	920	9200	3500	5400	350	920
流量	8.9	3.8	7.9	5.4	11	2.0	9.7	2.7

表 3-8 田中川（下流）における水質の予測結果(供用時)

項目	単位	春季	夏季	秋季	冬季
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg/L	6.0	4.3	2.9	3.2
化学的酸素要求 量(COD)	mg/L	11	11	4.3	7.2
全窒素	mg/L	3.0	2.9	2.0	4.1

注：予測は事業区域からの排水負荷が最大と予想される平成 17 年度について行っている

## 4 特筆すべき動物

### 4-1 オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ

#### 4-1-1 調査概要

評価書の現況調査(以下「現況調査」という。)において生息を確認したオオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウについて、当該地域の利用状況を把握するため、事業実施区域及びその周辺において調査を実施しました。

#### 4-1-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-1-1 に示したとおりです。

表 4-1-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
令和3年2月17日	定点観察調査(8:00~16:00)

#### 4-1-3 調査場所

調査定点は図 4-1-1 に示したとおり、事業実施区域のうち、造成工事中の西側区域を中心に4地点設定しました。

#### 4-1-4 調査方法

各調査地点において事業実施区域及び事業実施区域周辺における対象種の出現状況(飛翔等の行動)を記録しました。

なお、調査には8倍程度の双眼鏡、25~30倍程度の望遠鏡を用いて実施するとともに、各調査員間は無線機を用い、互いに連絡をとりながら対象種の行動を詳細に把握することとしました。

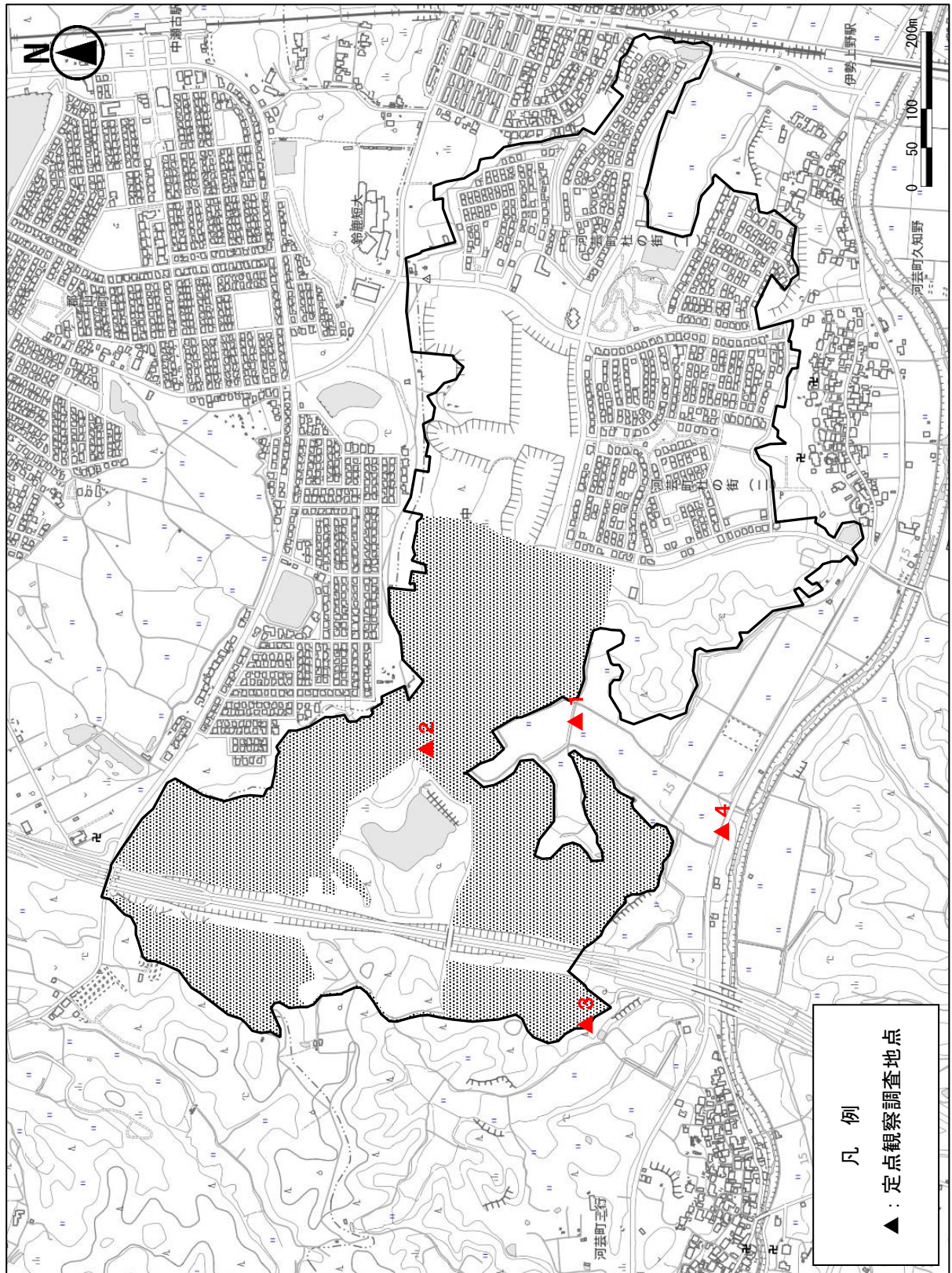


図 4-1-1 才オタ力等調査地点

#### 4-1-5 調査結果

本調査の結果、調査対象種 3 種(オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ)のうち、ハイタカ 1 種の生息を確認しました。

確認状況は表 4-1-2 及び図 4-1-2 に示したとおりであり、飛翔の確認のみで、繁殖を示唆する行動(巣材運び等)は確認できませんでした。

事後調査開始時からの確認状況は表 4-1-3 に示したとおりであり、これまで確認できる年とできない年があるものの、当該地域周辺の環境に大きな変化はみられなかったことから、当該地域はこれらの種の餌場の一部等として利用されてきたものと考えられます。令和 3 年 3 月現在、Ⅱ期・Ⅲ期工事区域内での大きな伐採はほとんど完了しており、Ⅲ期工事区域内に開通した国道 23 号中勢バイパスも供用から 3 年目を迎えていることから、調査対象種の繁殖地等の主要な生息環境は事業実施区域の北側や南側、西側の森林地域に移っているものと考えられますが、今後も事業実施区域周辺の耕作地等は餌場としての利用が継続されるものと考えられます。

調査状況は資料編の写真 2-2-1~4 に示したとおりです。

表 4-1-2 ハイタカ確認状況

No.	種名	確認時間	雌雄・成幼	確認状況
1	ハイタカ	11:36	不明・不明	定点 3 の北東側上空で確認。羽ばたきを交えながら西側へ低く飛び、手前の樹林の陰へ飛去。
2	ハイタカ	12:09	不明・不明	定点 3 の東側上空で確認。南側へ低く飛び、手前の樹林の陰へ飛去。
3	ハイタカ	15:42	不明・不明	定点 3 の北東側上空で確認。西側へ飛び、山を越えて飛去。

注：表中のNo.は図 4-1-2 中のNo.に対応。

表 4-1-3 オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウの過去の確認状況

種名	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
オオタカ	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	×	○
ハイタカ	×	○	×	×	×	×	×	○	○	○	×	○
チョウゲンボウ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×

種名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
オオタカ	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
ハイタカ	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
チョウゲンボウ	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×

注：「○」は生息を確認、「×」は確認できなかったことを示す。

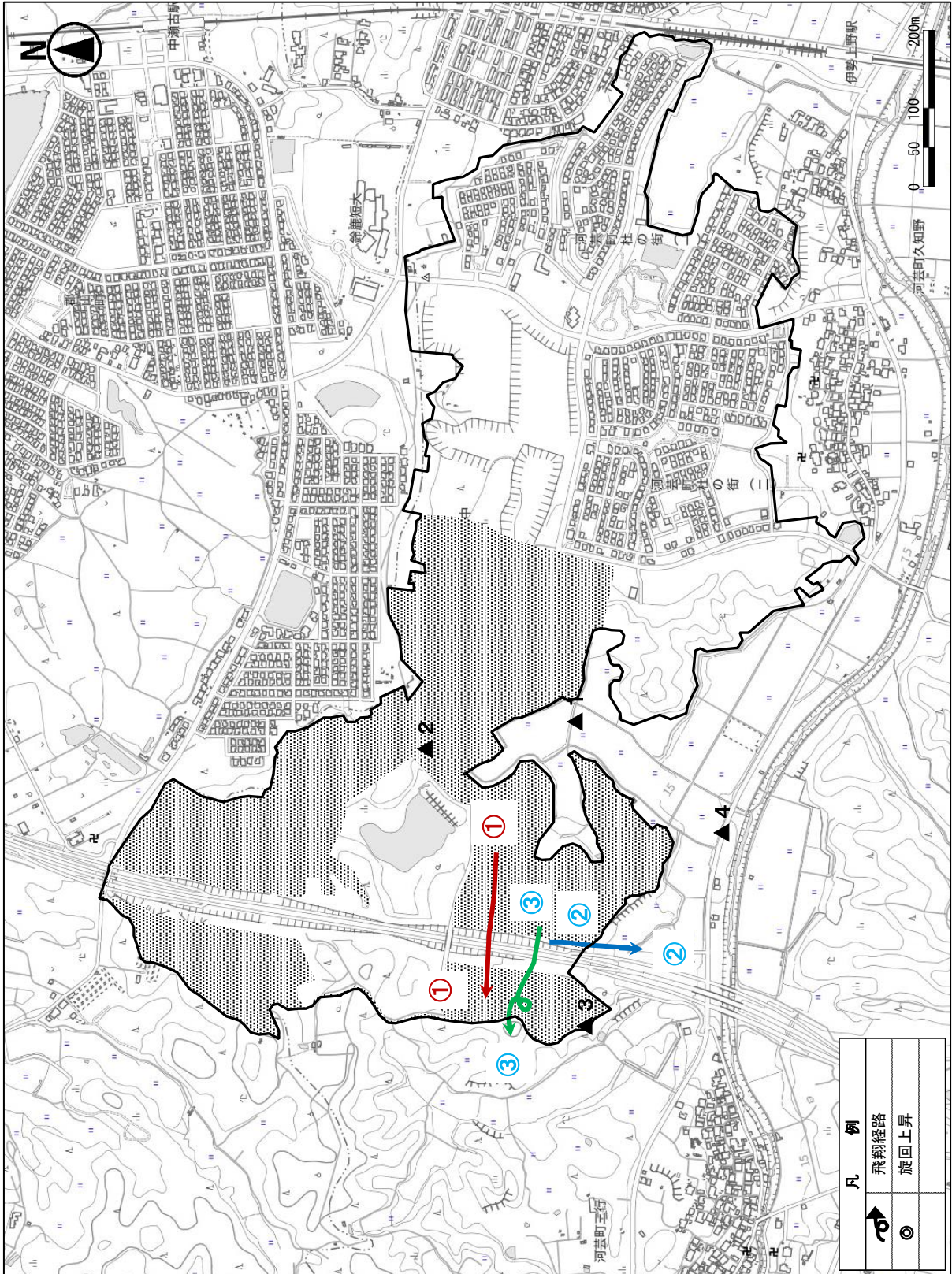


図 4-1-2 ハイタカ力確認位置

## 4-2 コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウ

### 4-2-1 調査概要

現況調査において生息を確認したコアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウについて調査を実施しました。

### 4-2-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-2-1 に示したとおりです。

表 4-2-1 調査年月日及び調査内容

対象種	調査年月日	調査内容
オオヨシキリ チュウサギ コアジサシ サンコウチョウ	令和2年6月26日	任意観察調査

### 4-2-3 調査ルート

主な調査ルートは図 4-2-1 に示したとおりです。

### 4-2-4 調査方法

調査は事業実施区域及びその周辺を任意に踏査し、対象種の確認に努めました。  
なお、調査には8倍程度の双眼鏡等を用いて実施しました。

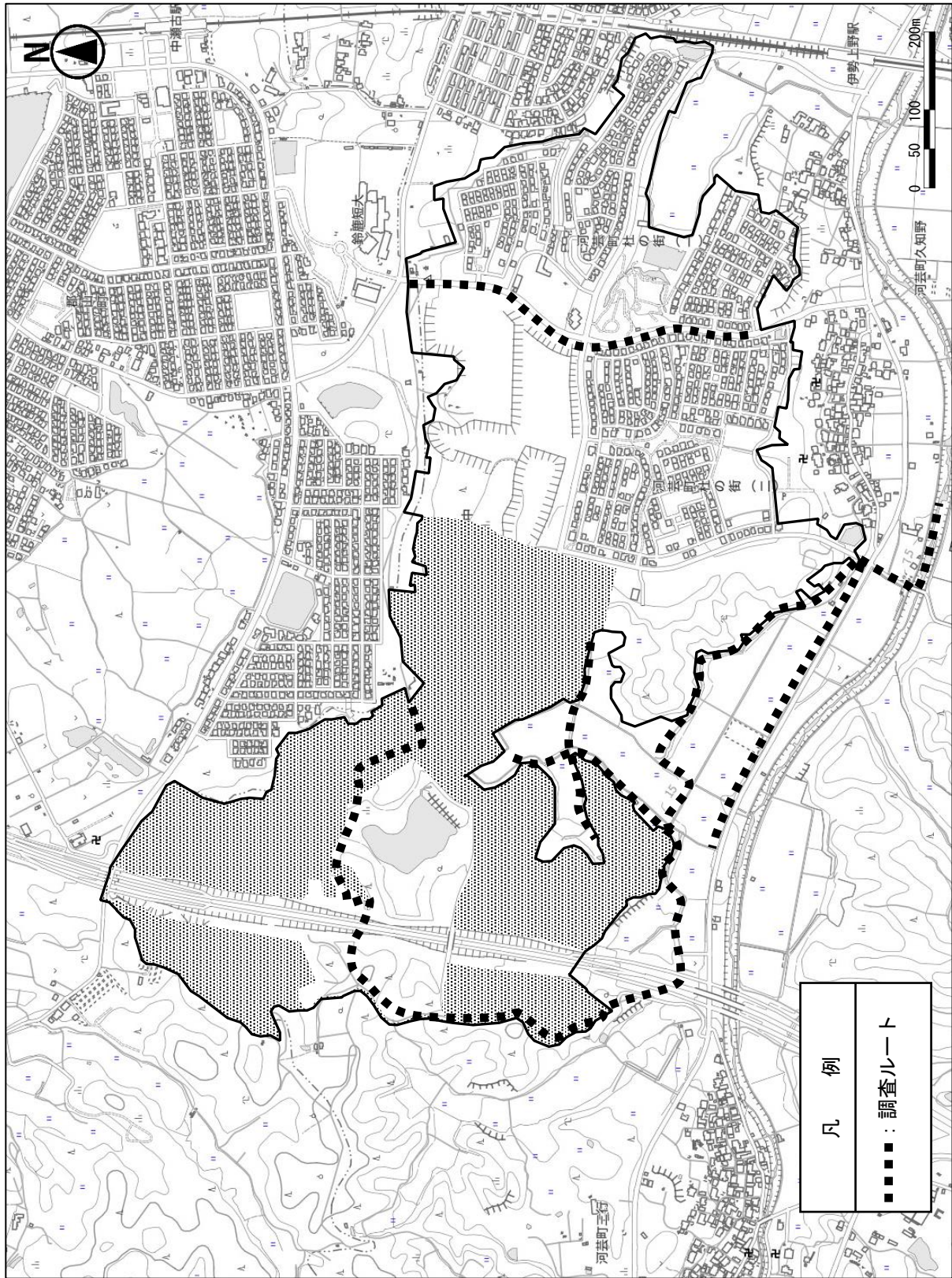


図 4-2-1 コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチヨウ調査ルート

#### 4-2-5 調査結果

今回の調査では、図 4-2-2 に示したとおり事業実施区域南側の 4 号調整池でオオヨシキリ 1 個体の囀りを確認し、事業実施区域南側の、林縁部樹上、水田、田中川でチュウサギ各 1 個体（計 3 個体）を確認しました。なお、これまでの事後調査における調査対象種の確認状況は表 4-2-2 に示したとおりであり、オオヨシキリについては平成 26 年度以来の再確認であり、チュウサギについては過年度から引き続いての確認となります。

確認できなかったその他の種については以下のとおりと考えます。

サンコウチョウについては、Ⅱ期・Ⅲ期工事区域内での大きな伐採はほとんど完了しており、Ⅲ期工事区域内に開通した国道 23 号中勢バイパスも供用から 3 年目を迎えている一方、周辺の環境に特に大きな変化は見られないことから、本種の生息環境は周辺域の森林に移っているものと考えられます。

コアジサシについては、本種の主な採餌環境が海岸及び河口付近であることから事業実施区域内を利用する可能性は低いものの、今後も河口から餌を求めて田中川を上がってくるものが考えられるため、田中川を中心に調査を継続して実施することとします。

調査の状況等は、資料編の写真 2-3-1、2 に示したとおりです。

表 4-2-2 コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウの過去の確認状況

種名	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
コアジサシ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
オオヨシキリ	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○
チュウサギ	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○
サンコウチョウ	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×

種名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
コアジサシ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
オオヨシキリ	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×
チュウサギ	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○
サンコウチョウ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

種名	R1*	R2
コアジサシ	—	×
オオヨシキリ	—	○
チュウサギ	—	○
サンコウチョウ	—	×

注：「○」は確認、「×」は未確認を示す。

※：令和元年度は、天候等の諸条件により調査適期における日程調整がつかず、実施できなかった。



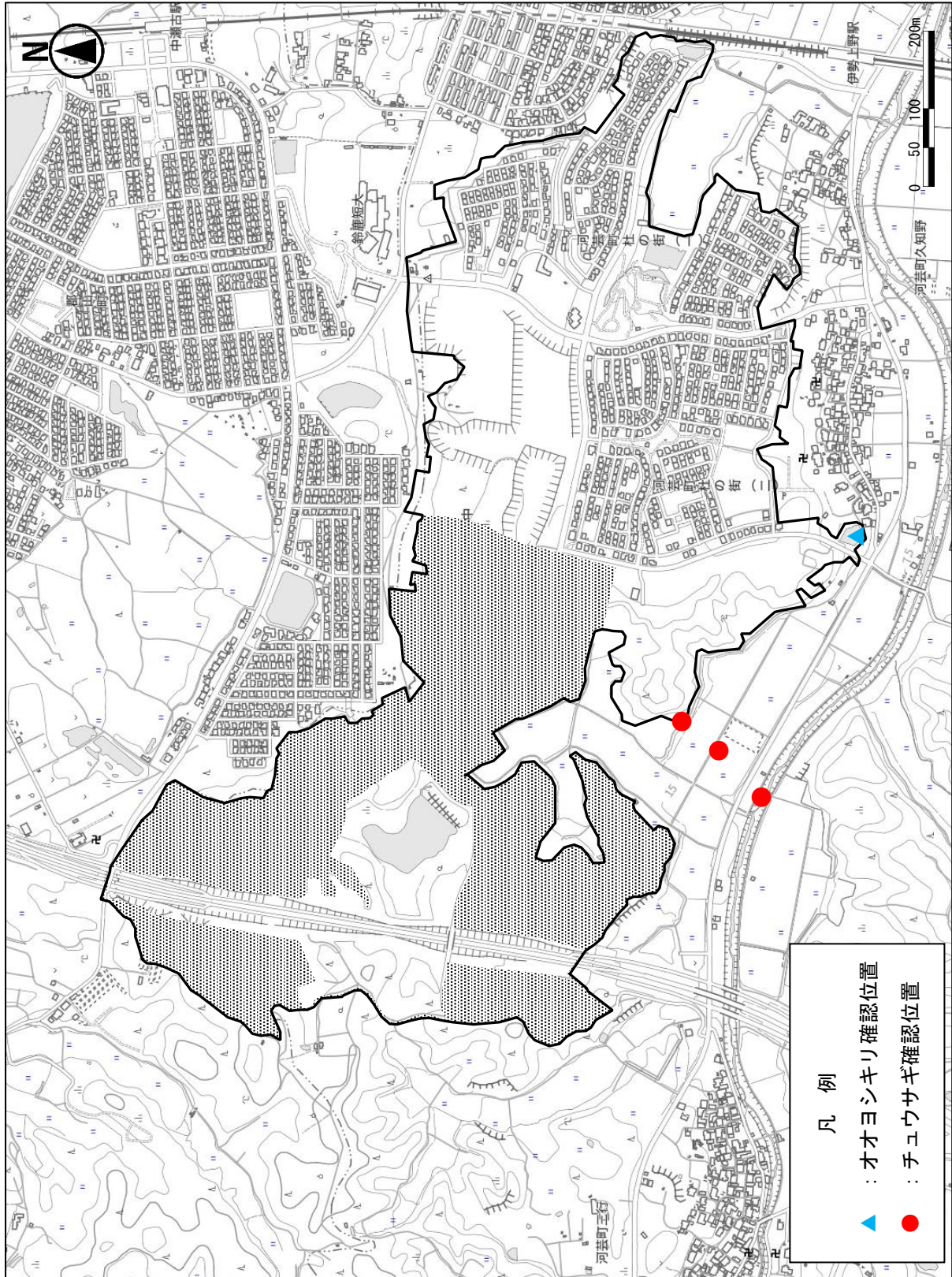


図 4-2-2 オオヨシキリ、チュウサギ確認位置

### 4-3 カスミサンショウウオ

#### 4-3-1 調査概要

カスミサンショウウオの産卵期である2～4月に事業区域及びその周辺を踏査し、卵嚢を主とする確認調査を実施しました。また、移殖地の環境整備を本種の産卵期の前に実施しました。

#### 4-3-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は、表4-3-1に示したとおりです。

表 4-3-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
令和2年12月8日	環境整備（水路整備、除草）
令和3年2月26日 令和3年3月17日 令和3年4月6日	卵嚢、成体確認調査

#### 4-3-3 調査場所

調査は事業区域のうち造成工事中の区域であるⅢ期工事区域及び周辺としました。調査場所は図4-3-1に示したとおりです。

#### 4-3-4 調査方法

昨年までに実施した調査で卵嚢等を確認した地域を中心に踏査し、卵嚢や成体の確認を行いました。卵嚢等を確認した場合は、確認地点の位置、卵嚢数、卵数、水温、pH、溶存酸素(DO)、産卵地の状況等について記録しました。

なお、これまでの調査では、個々の卵嚢を識別するために卵嚢を網（農業収穫物用ネット）に入れていましたが、過年度には他の動物（おそらくカラスと推定）によって網が引きちぎられたり、網ごと陸上へ放置されたりする被害がみられました。そのため、対策として、今年度も昨年度と同様に直径約7cm、高さ約9cmの透明プラスチック製の円柱型容器（ねじ込み式のふた付き、側面、底面に10数個の孔）にナンバリングをしたものを用いることとしました。

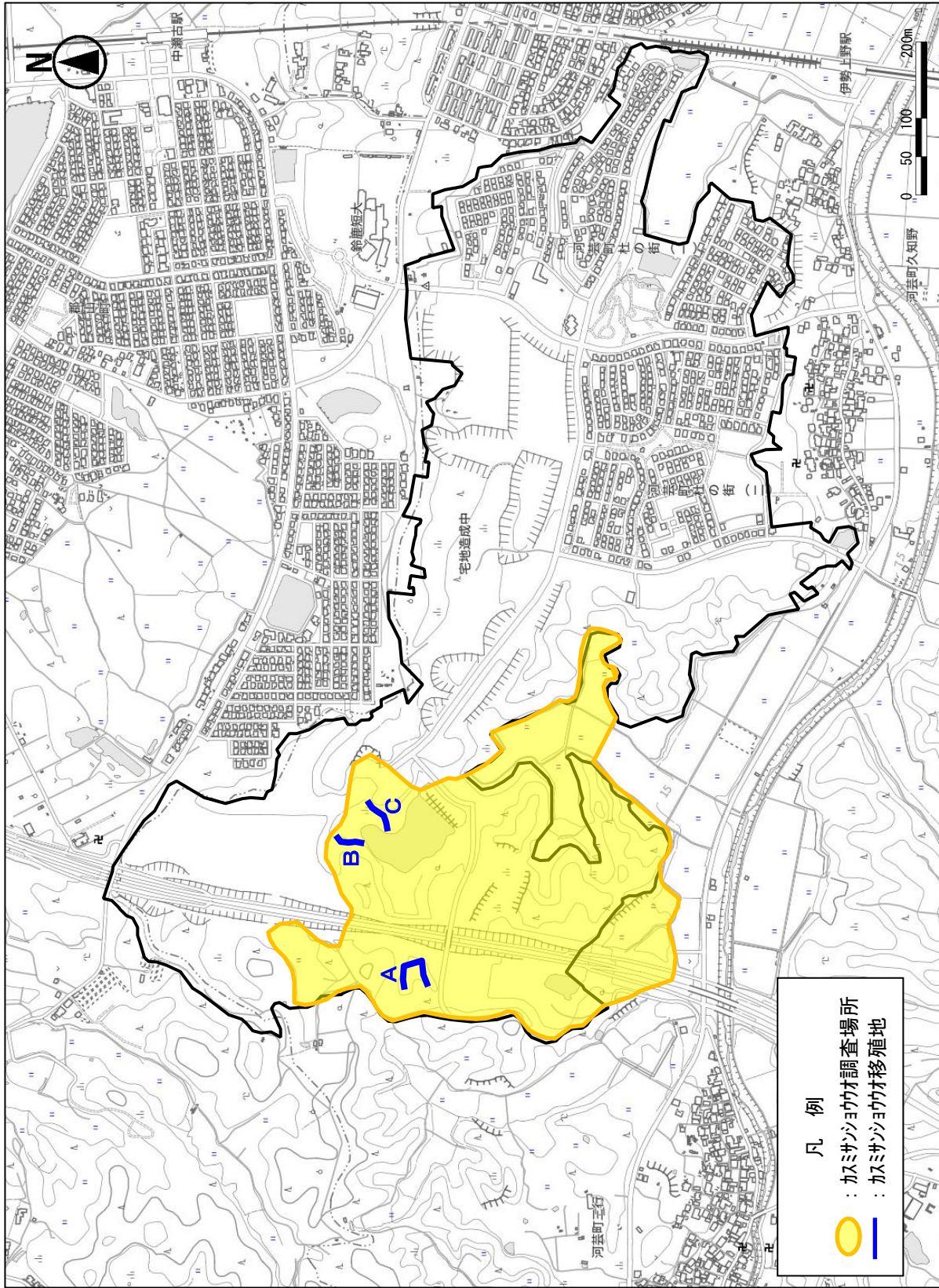


図 4-3-1 カスミサンショウウオ調査場所

#### 4-3-5 調査結果

卵嚢・成体の調査結果及び確認地点の水質等は表 4-3-2 に、確認地点は図 4-3-2 に示したとおりです。また、確認した卵の発生段階の推移は表 4-3-3 に示したとおりです。なお、卵の発生段階については、トウホクサンショウウオ発生段階図（資料参照）を準用し、現地で判定したものを記載しました。

今回の調査では、2 地点（地点 A、B）において計 3 個 6 卵嚢（1 対 3 個）を確認しました。1 卵嚢あたりの卵数は 34～68 卵で、1 卵嚢あたりでは平均 52.8 卵（1 対あたり 105.6 卵）でした。地点 A 及び B 以外の地点 C、D、E、F では卵嚢・成体は確認されませんでした。

卵嚢確認地点は、斜面下部の水路等の水溜まりで、水質は調査時の水温が 10.9～14.3℃、pH が 6.4～6.5、D0 が 5.64～7.32mg/L、水深が 6～15cm でした。いずれの地点も底質には軟泥が堆積しており、落葉枝が多く積もっていました。成体については確認されませんでした。

調査方法で述べたとおり、一昨年度までの網（農業収穫物用ネット）に代えて、透明プラスチック製の円柱型容器で卵嚢の識別を実施した結果、今年度は調査終了時までには昨年度と同様、過年度のように他の動物（おそらくカラスと推定）による網の引きちぎりや、卵の陸上への放置はありませんでした。

地点 A では、第 2 回調査で 2 個の卵嚢（発生段階ともに A）を確認し、最終調査（4 月 6 日）時には発生段階 C 及び一部が D となっており、両卵とも順調に発生が進行していました。地点 B では、第 2 回調査で 1 個の卵嚢（発生段階 A）を確認し、最終調査（4 月 6 日）ではすべて孵化し、容器の外へ脱出しており、昨年度までみられたような胚の発生が進まず死滅していくことはみられませんでした。確認卵嚢数は昨年度の 19 個に比べ大きく減少していましたが、これは、平成 26 年度から昨年度まで産卵はあるもののその後の発生が進まず死滅する状況が続いた結果として、調査対象地域における産卵可能な成熟個体が減少していることが要因と推察されます。

これまでの事後調査におけるカスミサンショウウオの確認状況は表 4-3-4 に示したとおり、調査開始以来、カスミサンショウウオの産卵は毎年確認されています。

調査の状況及び卵嚢確認状況等は、写真 2-3-1～11 に示したとおりです。

表 4-3-2 カスミサンショウウオ調査結果

調査年月日	地域	卵No	成体数	対 (卵囊数)		卵数		全卵数 うち 死卵数		着卵基質	水深 (cm)	水温 (℃)	pH	DO mg/L	地点状況及び 底質の状況	発生 段階
令和3年3月17日	A	A-01	0	1	2	68	61	129	0	あらかじめ刺した 針で	6	10.9	6.4	7.32	軟泥厚い	A
		A-02	0	1	2	61	56	117	39	不明	6	10.9			軟泥厚い	A
	B	B-01	0	1	2	34	37	71	0	枯草_セイカアワダチソウ の約8mm	15	14.3	6.5	5.64	軟泥厚い	A
合計			0	3	6	-	-	317	39	-	-	-	-	-	-	-

表 4-3-3 確認した卵囊の発生段階の推移

No.	卵No.	調査年月日		
		令和3年2月26日	令和3年3月17日	令和3年4月6日
A	A-1	-	A	C-d
	A-2	-	A	C
B	B-1	-	A	孵化
C		卵囊確認なし	卵囊確認なし	卵囊確認なし
D		卵囊確認なし	卵囊確認なし	卵囊確認なし
E		卵囊確認なし	卵囊確認なし	卵囊確認なし
F		卵囊確認なし	卵囊確認なし	卵囊確認なし

注：表中の発生段階の説明は資料編の「トウホクサンショウウオ発生段階図」参照

表 4-3-4 カスミサンショウウオの過去の確認状況

種名	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
カスミサンショウウオ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

種名	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
カスミサンショウウオ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

種名	H30	R1	R2
カスミサンショウウオ	○	○	○

注：「○」は確認、「×」は未確認を示す。

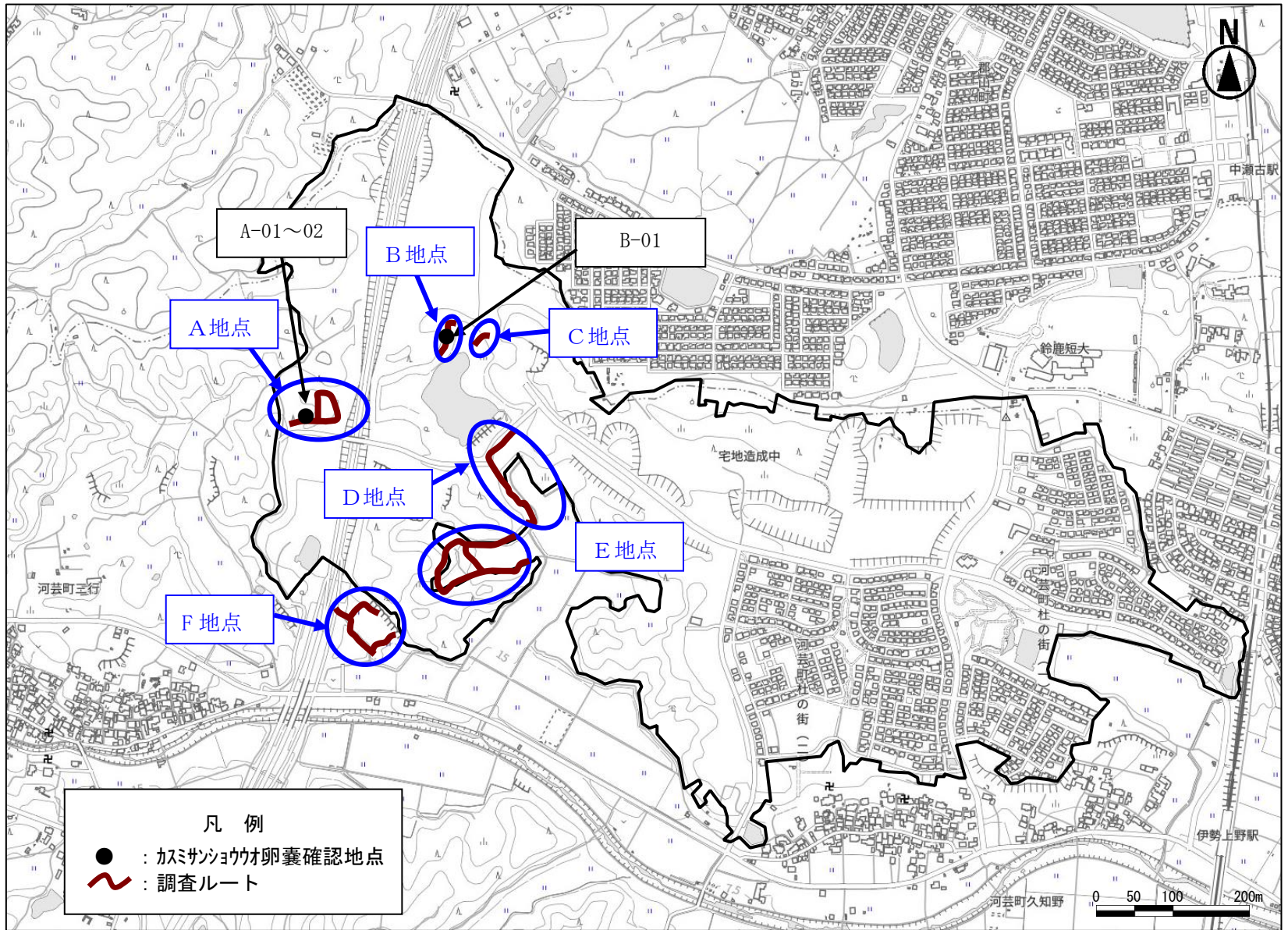


図 4-3-2 カスミサンショウウオ卵囊確認地

#### 4-4 ダルマガエル

##### 4-4-1 調査概要

現況調査時に生息を確認したダルマガエルについて、生息確認調査を実施しました。

##### 4-4-2 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-4-1 に示したとおりです。

表 4-4-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
令和2年6月22日	成体確認調査

##### 4-4-3 調査場所

調査場所は図 4-4-1 に示したとおり、現況調査時の確認地点東側の水田、水路や事業区域南側の水田等を中心に実施しました。

##### 4-4-4 調査方法

成体の出現時期に目視及びタモ網等により本種の確認に努めるとともに、鳴き声による確認にも努めました。

##### 4-4-5 調査結果

事業実施区域の未改変区域及び区域外で生息の可能性が高いと考えられる東側の水田や南側の水田等で調査を実施しましたが、本種の生息を確認することはできませんでした。

現況調査時においても本種の確認は成体1個体の確認であり、当地域における生息個体数は極めて少ないと考えられますが、今後も調査を継続し、生息の確認に努めることとします。

なお、これまでの事後調査におけるダルマガエル確認状況を表 4-4-2 に示しました。

調査の状況等は、資料編の写真 2-5-1、2 に示したとおりです。

表 4-4-2 ダルマガエルの過去の確認状況

種名	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
ダルマガエル	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

種名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
ダルマガエル	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

種名	R2
ダルマガエル	×

注：「○」は確認、「×」は未確認を示す。

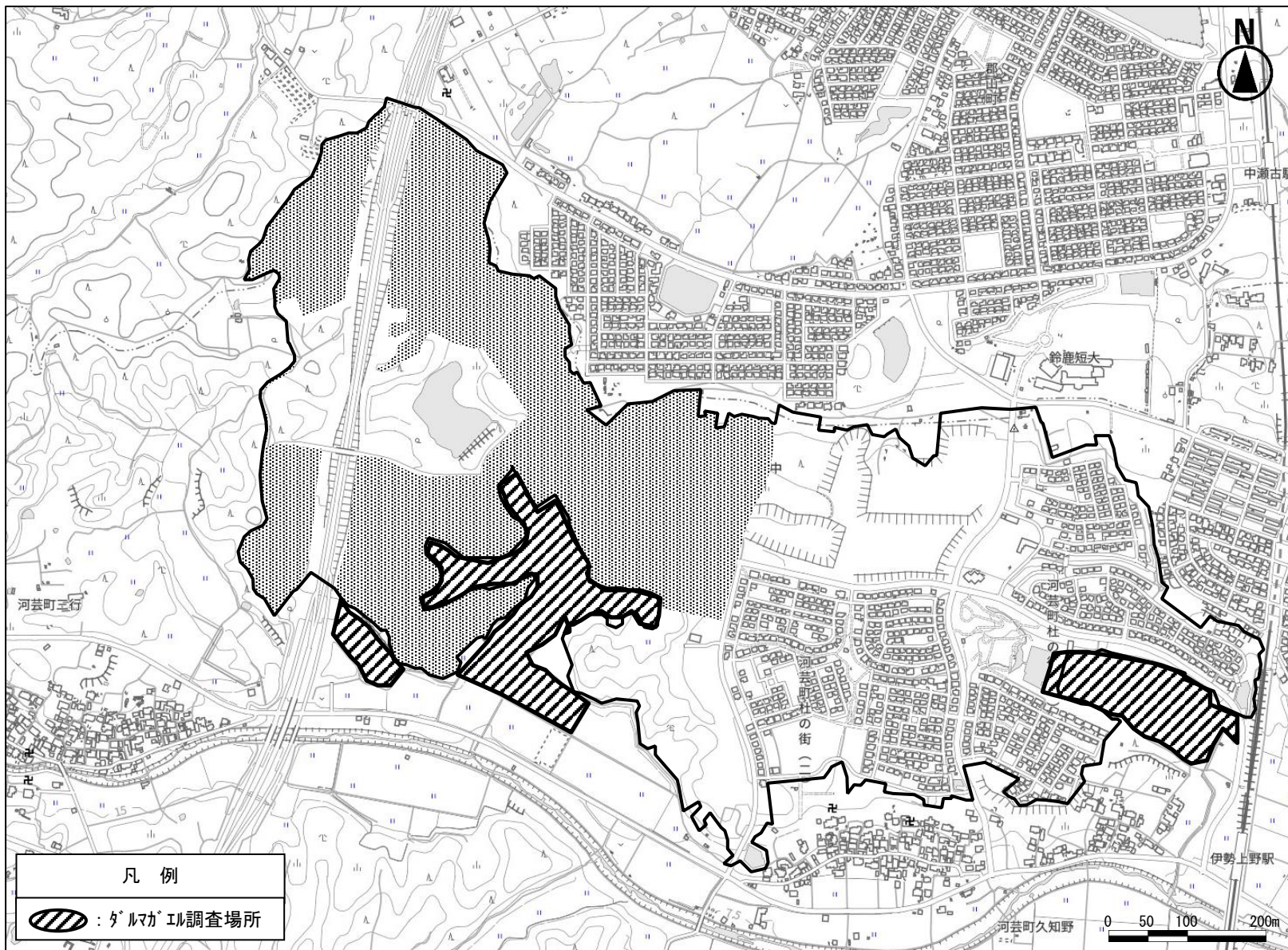


図 4-4-1 ダルマガエル調査場所



## < 資料編 >

- 1 トウホクサンショウウオ発生段階図
  - 2 調査状況等写真
    - 2-1 水 質
    - 2-2 特筆すべき動物(オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウ)
    - 2-3 特筆すべき動物(コアジサシ、オオヨシキリ、チュウサギ、サンコウチョウ)
    - 2-4 特筆すべき動物(カスミサンショウウオ)
    - 2-5 特筆すべき動物 (ダルマガエル)
- 添付 水質調査結果 計量証明書(写し)

